

残留農薬検査(平成27年度 その3)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成27年10月から11月までに食品専門監視班及び各区福祉保健センターより搬入された農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

10月に搬入されたさつまいも、さといも及びじゃがいも(各2検体)、こまつな、ししとう、なす及びピーマン(各1検体)、11月に搬入されたキャベツ及びにんじん(各3検体)、さつまいも、さといも、だいこんの根及びだいこんの葉(各2検体)、かき、かぶの根、かぶの葉、こまつな、チンゲンサイ、トマト、なす、ブロッコリー及びほうれんそう(各1検体)の計33検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、こまつな、さといも、ししとう、だいこんの葉、ピーマン及びほうれんそう各1検体から計4種類6項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 国内産農産物

11月に搬入されたキャベツ及びだいこんの根(各2検体)、はくさい、パセリ及びレタス(各1検体)の計7検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、はくさい及びパセリ各1検体から、計3種類3項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

3 輸入農産物

10月に搬入されたさやいんげん及びブロッコリー(各1検体)の計2検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、農薬が検出されたものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出された農薬の概要については、6ページからの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H27年10月～H27年11月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
かき	横浜市	1	0			
かぶの根	横浜市	1	0			
かぶの葉	横浜市	1	0			
キャベツ	横浜市	3	0			
こまつな	横浜市	2	1	アゾキシストロビン	0.50	15
さつまいも	横浜市	4	0			
さといも	横浜市	4	1	ダイアジノン	0.02	0.1
ししとう	横浜市	1	1	アセタミプリド	0.02	2
じゃがいも	横浜市	2	0			
だいこんの根	横浜市	2	0			
だいこんの葉	横浜市	2	1	ペルメリン	0.08	3.0
チンゲンサイ	横浜市	1	0			
トマト	横浜市	1	0			
なす	横浜市	2	0			
にんじん	横浜市	3	0			
ピーマン	横浜市	1	1	アセタミプリド	0.03	1
ブロッコリー	横浜市	1	0			
ほうれんそう	横浜市	1	1	ペルメリン	0.12	2.0

表1 残留農薬検査結果(続き)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
国内産農産物						
キャベツ	茨城県	1	0			
	神奈川県	1	0			
だいこんの根	千葉県	1	0			
	神奈川県	1	0			
はくさい	長野県	1	1	フェンバレレート	0.23	3.0
パセリ	千葉県	1	1	アセタミプリド	0.39	3
				ジフェノコナゾール	0.63	10
レタス	茨城県	1	0			
輸入農産物						
さやいんげん	タイ	1	0			
ブロッコリー	エクアドル	1	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	検出				農薬名	検出 限界 (ppm)	検出			
		A*1	B*1	C*1	D*1			A	B	C	D
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○*2	-*2	-	-	シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	○	○	シアノホス	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	ジウロン	0.01	○	○	○	-
アクリナリン	0.01	○	○	○	○	ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	○	ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○	○
アジンホスメチル	0.01	-	-	-	○	ジコホール	0.01	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	シハロトリン	0.01	○	○	○	○
アズキシストロビン	0.01	○	○	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-	○
アニロホス	0.01	○	○	○	-	シフルトリン	0.01	-	○	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	○	シフルフェナミド	0.01	○	○	-	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	○	シペルメトリン	0.01	-	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	ジメチリモール	0.01	-	-	○	○
インダノファン	0.01	○	○	○	-	ジメトモルフ	0.01	○	○	○	-
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	スルプロホス	0.01	○	○	○	○
エチオン	0.01	○	○	○	○	ダイアジノン	0.01	○	○	○	○
エトプロホス	0.005	○	○	○	○	ダイムロン	0.01	○	○	○	○
エトリムホス	0.01	○	○	○	○	チアクロプリド	0.01	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	-	-	○	-	チアメキサム	0.01	○	-	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	-	○	-	-	テトラクロルビンホス	0.01	○	○	○	○
エンドリン	0.005	-	○	-	○	テトラジホン	0.01	○	○	○	-
オキサミル	0.01	○	○	○	○	テブチウロン	0.01	○	○	○	-
オキシカルボキシシ	0.01	○	○	○	○	テブフェノジド	0.01	○	○	○	○
オリザリン	0.01	-	○	○	○	テフルトリン	0.01	○	○	○	○
カズサホス	0.01	○	○	○	○	トラルコキシジム	0.01	○	○	○	○
カフェンストロール	0.01	○	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	○	○	○	-
カルバリル	0.01	○	○	○	○	トリフルムロン	0.01	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	-	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	ノバルロン	0.01	-	○	○	○
クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	-	パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	ピフェントリン	0.01	○	○	○	○
クロリダゾン	0.01	○	○	○	○	ピラクロストロビン	0.01	○	-	-	-
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	ピラゾリネート	0.01	-	-	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	ピリフタリド	0.01	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○
クロルフェンソン	0.01	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○
クロルフェンビンホス	0.01	○	○	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○
クロロクスロン	0.01	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	-	フェノキシカルブ	0.01	○	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出限界 (ppm)	A	B	C	D	農薬名	検出限界 (ppm)	A	B	C	D
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	-	○	○	○
フェリムゾン	0.01	○	-	-	-	ヘキサフルムロン	0.01	○	-	-	-
フェンアミドン	0.01	○	○	○	-	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	-	-
フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
フェントエート	0.01	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
フェントラザミド	0.01	○	○	○	-	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○
フェンバレレート	0.01	-	○	○	-	ベントキサザン	0.01	○	-	-	-
フェンピロキシメート	0.01	-	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	-	○
フェンプロバトリン	0.01	-	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	-
ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○
ブタミホス	0.01	○	○	○	○	メタベンズチアズロン	0.01	○	○	○	○
フラメビル	0.01	○	○	○	-	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
フルシトリネート	0.01	-	○	○	-	メピンホス	0.01	○	○	○	○
フルバリネート	0.01	-	○	○	○	モノリニユロン	0.01	○	○	○	-
フルフェナセット	0.01	○	○	○	-	ラクトフェン	0.01	○	○	-	○
フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	リニユロン	0.01	○	○	○	○
フルリドン	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.002	○	○	○	-
プロシミドン	0.01	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	-	○	○	○
プロチオホス	0.01	○	○	○	○						

*1 A:かぶの葉、こまつな、さやいんげん、ししとう、だいごんの葉、チンゲンサイ、トマト、にんじん、パセリ、ピーマン、ブロッコリー及びほうれんそう B:かぶの根、キャベツ、だいごんの根、なす、はくさい及びレタス C:さつまいも、さといも及びじゃがいも D:かき

*2 ○:実施、-:実施せず

*3 DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【農薬解説】

○アセタミプリド

『モスピラン』などの商品名で販売されている殺虫剤で、広範囲の害虫に対して効果があります。今年度実施した検査において、こまつな(市内産)及びトマト(市内産・国内産)からも検出されました。

○アゾキシストロビン

『アミスター』などの商品名で販売されている殺菌剤で、多くの菌類に対し強い抗菌効果があります。今年度実施した検査において、きゅうり、こまつな、トマト及びほうれんそう(市内産)からも検出されました。

○ジフェノコナゾール

『スコア』などの商品名で販売されている殺菌剤で、果樹、野菜、茶などの主要病害に予防及び治療効果があります。

○ダイアジノン

『ダイアジノン』などの商品名で販売されている殺虫剤で、土壌害虫や、葉に喰入した害虫など、広範囲の害虫に効果があります。即効性があり、残効期間は短いとされています。

○フェンバレレート

『スミサイジン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。広範囲の害虫に効果があり、従来の殺虫剤が効きにくい害虫に対しても効果があります。

○ペルメトリン

『アディオン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。果樹、野菜、茶などの主要害虫の防除に使用されます。今年度実施した検査において、トマト及びぶどう(市内産)からも検出されました。

※参考文献

・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2011年版